Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO

気づけば変わる、未来が広がる。

アミノインデックス®

早期がん発見事例

医療従事者向け

※本パンフレットの内容は
2026年6月現在のものです

検査活用レポート

静岡赤十字病院

画像では捉えきれなかったDCISの一例

―臨床判断を変えた“もう一歩”とは―

「振り返ると、あのまま経過観察していた可能性もあったケースです。」

今回の症例について、静岡赤十字病院乳腺外科副部長・菊池雅之医師は語る。本症例は、画像検査のみでは生検に至らなかった可能性もあったと考えられる中で、アミノインデックス® の結果が臨床医の意思決定に影響したと考えられる、臨床的に示唆に富む一例である。



静岡赤十字病院 乳腺外科
副部長 **菊池 雅之**様

■学歴・経歴
2013年 医学部卒業
慶應義塾大学 医学部 外科学教室 所属（助教）
2020年4月～ 静岡赤十字病院 勤務

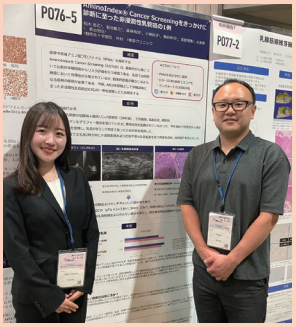
■専門領域
乳腺外科（乳がん診療、乳房再建等）

症例概要

69歳女性。自覚症状はなく、乳がんの既往はあるものの、定期フォローで明らかな異常は指摘されていなかった。職域健診でアミノインデックス® がんリスクスクリーニング（AICS®）を受診し、乳がんの項目のみ Bランクと判定された。これを契機に近隣のクリニックでマンモグラフィと超音波検査を受診し、菊池先生のもとで生検に至った。

初期評価と画像所見

マンモグラフィでは明らかな異常所見は認められなかった。一方で、超音波検査ではごく軽微な構造変化が確認された。この所見について、菊池は次のように述べる。「脇に近いところに少しもやもやと見える所見がありましたが、画像だけで見れば積極的に悪性を疑う所見ではありませんでした。経過観察とする判断も十分あり得るケースです。」



第34回日本乳癌学会学術総会ポスターセッションにて発表
発表者：柏木悠花先生

生検実施に至った経緯

しかし本症例では生検の追加検査が選択された。菊池はその判断について次のように振り返る。「正直、この所見だけであれば経過観察でもよかったかもしれません。ただ、AICS® の結果も踏まえると『このままでよいのか』という迷いがあり、患者さんと相談し、もう一歩踏み込んで評価することにしました。画像所見単独では判断が難しい場合でも、別の情報が加わることで臨床判断が変わることがあります。」

なぜ見つかりにくいのか（検診の限界）

DCIS は乳管内に限局し、腫瘤形成を伴わないことがあり、画像変化が乏しい。特に石灰化を伴わない場合、マンモグラフィでの検出は困難となる。菊池は次のように述べる。「今回のように画像で目立たない DCIS は、実臨床でも見逃される可能性があります。」

本症例から考えるアミノインデックス® の位置づけ

本症例は、画像所見のみでは診断に至らなかった可能性がある中で、補助的情報が意思決定を変えた点に意義がある。菊池は次のようにまとめる。「AICS® は診断そのものを目的とした検査ではありませんが、追加精査や受診判断の契機として、臨床判断を後押しする可能性があります。」本症例は、画像では捉えきれないDCIS に対し、リスク評価情報を含めた統合的判断が早期発見につながる可能性を示した症例である。アミノインデックス® 自体は診断のためのツールではないが、他の検査や臨床所見と組み合わせることで、精密検査を行うきっかけになる可能性がある。無症状あるいはごく早期の段階で「次の一歩」を促す方法として、今後の応用が期待される。



静岡赤十字病院は、静岡市にある411床規模の中核病院で、赤十字の「人道・博愛」の精神のもと、救命救急や災害医療を含む高度で幅広い医療を提供する地域医療の中心的存在です。

資料請求・お問い合わせ

味の素株式会社
ai_for_medical@asv.ajinomoto.com

0120-171-714
受付時間 平日9:30～17:30
お客様への対応を正確に行うため、内容を録音させていただいております。
コールセンター担当が1次対応をしますので、医療従事者からののお問い合わせとお伝えください。

アミノインデックス
WEBページはこちら
https://www.ajinomoto.co.jp/products/aminoindex/